

「リサーチ・アドミニストレーターに係る
質保証制度の構築に向けた調査研究」シンポジウム

研修プログラムの概要について

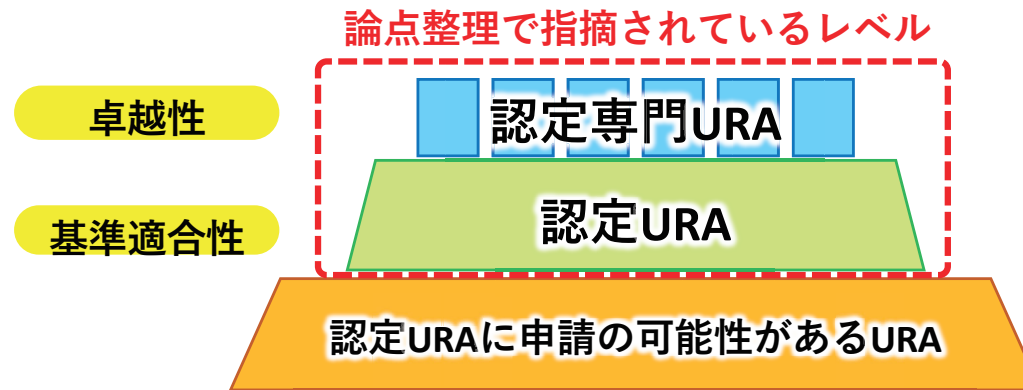
研修プログラムワーキンググループ

佐治英郎 (京都大学 学術研究支援室)

URA活動に必要な知識・能力の習得を図ることを目的とした 体系的な研修カリキュラムの試案の作成

内容

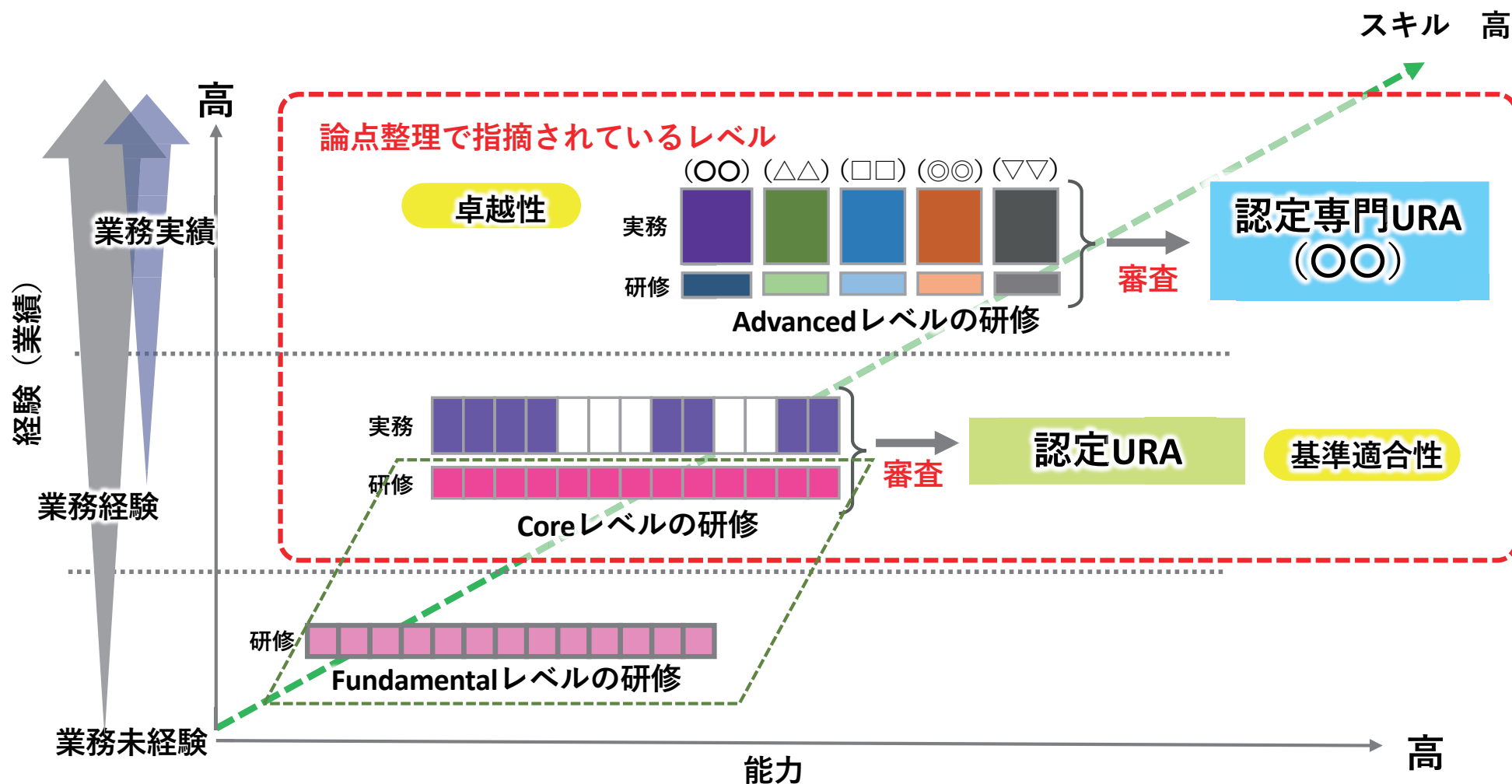
1. 研修プログラムのレベル、研修受講対象者について
2. 研修プログラムの概要
3. 今後の検討事項について



研修プログラムのレベル	研修受講対象者
<p><Advanced> (認定専門URA)</p> <p>URA業務上の課題の発見と解決を主導的に行うことができる知識のレベル</p> <p>→ URA業務に関する言葉の意味を理解し、創造的に業務に活かすことができる (大学の経営に資するものも入りうる)</p>	<p>URA職として十分な経験を有し、中核業務についてかなりのスキルと業績を有している</p>
<p><Core> (認定URA)</p> <p>URA業務上の課題の発見と解決を自立的に行うことができる知識のレベル</p> <p>→ URA業務に関する言葉の意味を理解し、主体的に業務に活かすことができる (事例を紹介するものや、演習やロールプレイもありうる)</p>	<p>URA職として業務経験を有し、中核とする業務が明確になっている</p>
<p><Fundamental> (認定URAに申請の可能性があるURA)</p> <p>URA業務上の課題の発見と解決を上司の指示のもとに行うことができる知識のレベル</p> <p>→ URA業務に関する言葉を知っている (実務を担わないURAも知っておくべき知識)</p>	<p>URA職に就いて1~3年程度 URA職に就くことを希望する人 (未経験者~1-3年程度)</p>

レベルの関係 (イメージ)

□ は、一つの業務 (科目) 区分を示す。



東京大学スキル標準(22項目)をベースとして科目構成を検討

研修レベル	研修レベルの説明	科目数 (検討中)
Advanced	URA業務上の課題の発見と解決を主導的に行うことができる知識のレベル	○専門領域
Core	URA業務上の課題の発見と解決を自立的に行うことができる知識のレベル	10グループ (科目群) 15科目
Fundamental	URA業務上の課題の発見と解決を上司の指示のもとに行うことができる知識のレベル	10グループ (科目群) 15科目

科目群（グループ）	科目名
A. 研究機関とURA	① 大学等の研究機関
	② 日本のURA
B. 研究コンプライアンスとリスク管理	③ 研究コンプライアンス及びリスク管理①
	④ 研究コンプライアンス及びリスク管理②
C. 研究開発評価	⑤ 研究開発評価
D. 外部資金	⑥ 外部資金概論
	⑦ 申請書・報告書の作成支援
E. 研究力分析とその活用	⑧ 科学技術政策概論
	⑨ 研究力分析とその活用
F. 研究プロジェクト	⑩ 研究プロジェクトのマネジメント手法
G. 産学官連携	⑪ 産学官連携
	⑫ 地域連携
H. 知的財産	⑬ 知的財産
I. 研究広報	⑭ 広報
J. 国際化推進	⑮ 国際化推進

提案する科目

東京大学スキル標準業務項目

科目群記号	科目群	科目番号	科目名				
A	研究機関とURA	1	大学等の研究機関				
		2	日本のURA				
B	研究コンプライアンスとリスク管理	3	研究コンプライアンス及びリスク管理①	4	研究コンプライアンス及びリスク管理②	4. 関連専門業務	4-8 安全管理関連
						4. 関連専門業務	4-9 倫理・コンプライアンス関連
C	研究開発評価	5	研究開発評価			3. ポスタワード業務	3-4 プロジェクト評価対応関連
D	外部資金	6	外部資金概論			2. プレアワード業務	2-2 外部資金情報収集
		7	申請書・報告書の作成支援			2. プレアワード業務	2-5 申請資料作成支援
E	研究力分析とその活用	8	科学技術政策概論			3. ポスタワード業務	3-5 報告書作成
		9	研究力分析とその活用			1. 研究戦略推進支援業務	1-1 政策情報等の調査分析
F	研究プロジェクト	10	研究プロジェクトのマネジメント手法			1. 研究戦略推進支援業務	1-2 研究力の調査分析
H	知的財産	13	知的財産			1. 研究戦略推進支援業務	1-3 研究戦略策定
G	産学官連携	11	産学官連携			2. プレアワード業務	2-1 プロジェクト企画立案支援
		12	地域連携			2. プレアワード業務	2-3 プロジェクト企画のための内部折衝活動
I	研究広報	14	広報			2. プレアワード業務	2-4 プロジェクト実施のための対外折衝・調整
						3. ポスタワード業務	3-1 プロジェクト実施のための対外折衝・調整
J	国際化推進	15	国際化推進			3. ポスタワード業務	3-1 プロジェクト実施のための対外折衝・調整
						3. ポスタワード業務	3-2 プロジェクトの進捗管理
						3. ポスタワード業務	3-3 プロジェクトの予算管理
						4. 関連専門業務	4-4 知財関連
						4. 関連専門業務	4-3 産学連携支援
						4. 関連専門業務	4-5 研究機関としての発信力強化推進
						4. 関連専門業務	4-6 研究広報関連
						4. 関連専門業務	4-7 イベント開催関連
						4. 関連専門業務	4-2 国際連携支援

科目番号	科目名	Fundamentalの概要
1	大学等の研究機関	大学等の研究機関においてURA業務を行うための基礎知識を与える。まず、我が国の大学がどのようにして生まれ、どのような根拠で設置されているか、どのような役割（使命）を課せられているか等の大学の基本について述べる。そして、研究とは何か、大学の運営と財務、教職員の職務等について述べる。最後に、大学以外の公的研究機関について述べる。
2	日本のURA	リサーチ・アドミニストレーター（以下、URAと称する）の業務を理解するための前提として、国の主導で進められてきた我が国のURA整備の経過と現在の状況について概説する。そして、これまでの整備によって、URAの業務とスキルがどのように考えられているかについて述べる。また、機関の経営者層、研究者、事務職員、URA類似職（産学連携コーディネーター等）との関係を述べる。
3	研究コンプライアンス及びリスク管理①	大学・研究機関等において研究活動を実施する研究者として知っておくべき、コンプライアンスとリスク管理について、知識を習得する。
4	研究コンプライアンス及びリスク管理②	大学・研究機関外の組織等との産学連携活動を実施する研究者として知っておくべき、コンプライアンスとリスク管理について、知識を習得する。
5	研究開発評価	研究開発評価の基礎と、国の研究開発評価に係る政策の動向を理解し、機関単位の研究開発事業評価を受ける際に必要な知識を概説する。
6	外部資金概論	外部資金とは何か？ということ（国内外の研究資金全体の俯瞰とその中での外部資金の位置付け）と機関における外部資金の位置付けを理解した上で、外部資金の種類や違い等を理解し、URAとして研究者に適切な公募情報を提供することができるように、外部資金の最低限の知識を習得するための情報を概説する。
7	申請書・報告書の作成支援	競争的資金における申請書・報告書の役割を理解し、FAと研究者のマッチングツールとしての申請書・報告書の作成についてURAとしてどのように支援するべきかを学ぶ。
8	科学技術政策概論	日本の科学技術政策の変遷及び現状を知り、大学・研究者に求められている役割を学ぶ。また、科学技術政策に関わる機関やその役割を学ぶ。
9	研究力分析とその活用	URAの研究戦略推進支援業務の要素となる、研究力の調査分析について、基本的な事項を学ぶ。
10	研究プロジェクトのマネジメント手法	研究プロジェクトの基礎的な概念と、研究プロジェクトをマネジメントするために必要な工程と方法を学ぶ。具体的には、大学などアカデミアを拠点とする研究プロジェクトの構想、立案、研究資源の確保、研究組織案の策定、研究プロジェクトの起動・運営・マネジメント、研究リーダー（PI=Principal Investigator）との連携と役割分担など、研究プロジェクトの創出から経常的な運営までの一連の作業工程とその方法について理解する。
11	産学官連携	産学官連携の意義や目的を理解し、外部機関等との連携の手法、外部資金の受入れ、研究成果の取扱い、外部機関との連携における留意点について基本的な知識を習得する。
12	地域連携	ここで言う”地域連携”は、地域の中の近接効果を意識して、大学外セクターとの連携により、大学での研究・教育活動の活性化という視点だけでなく、大学のリソースによって大学外セクターにある種の価値をもたらすことを意図しておこなう取組であり、イニシャチブを取る主体となるセクターは特に問うものではない。しかしながらセクターに依存してその性格は大きく変化する。こうした地域連携の意義や目的を理解し、地域の抱える課題、地域の自治体や企業、金融機関、教育機関をはじめとする地域のステークホルダー、連携方法、学生の参画、地域連携における留意点について基本的な知識を習得する。
13	知的財産	知的財産権の基礎知識を習得する。どのような研究成果が特許になるか、また、著作権等特許権以外の産業財産権についても理解する。
14	広報	URAが担うべき広報活動を理解するため、広報・アウトリーチ活動が研究者に求められている背景と現状を紹介する
15	国際化推進	大学の国際化に関する業務を俯瞰的に概説し、URAが貢献できる研究の国際化推進の業務について説明する

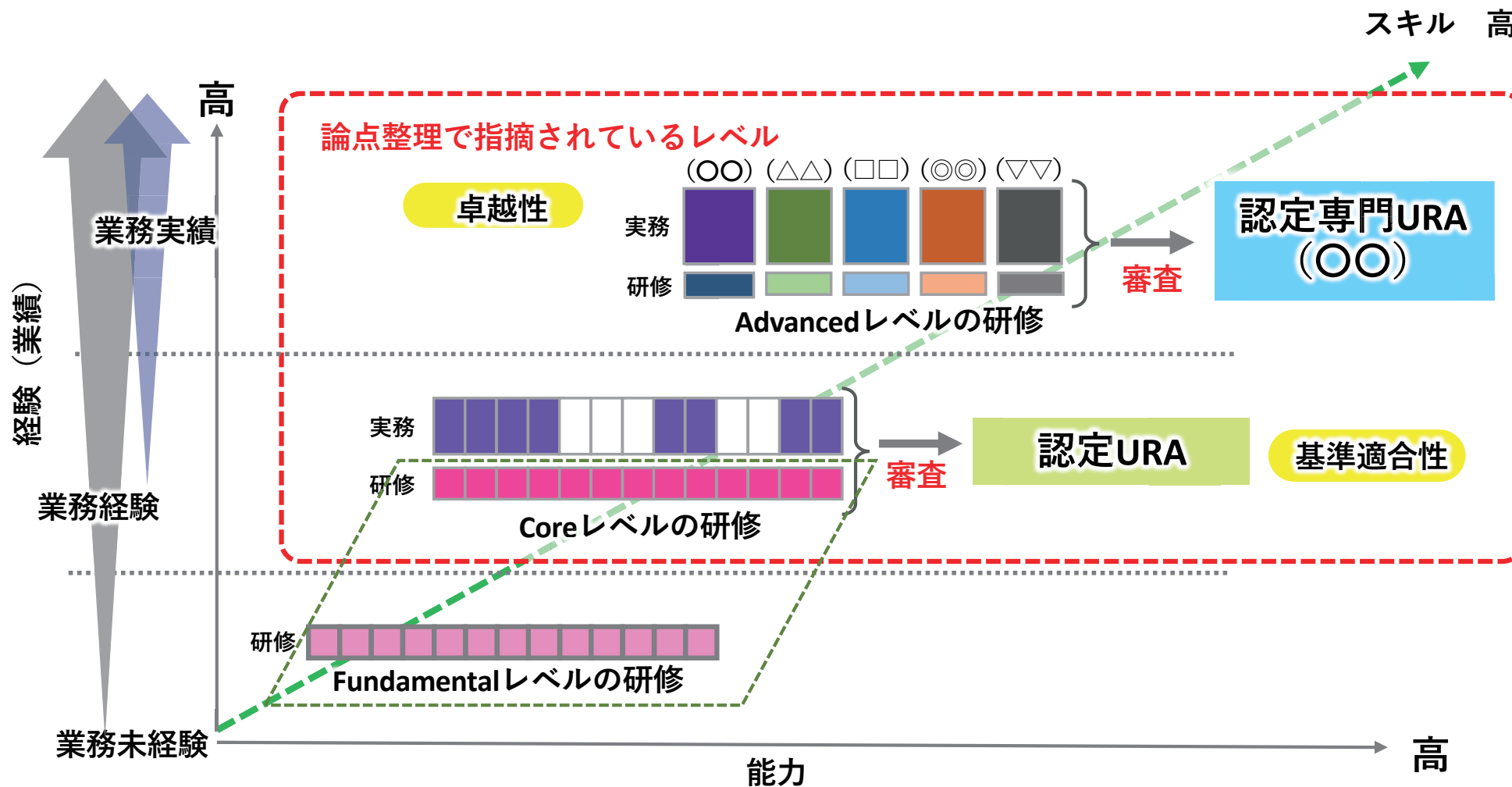
科目番号	科目名	Coreの概要
1	大学等の研究機関	URA業務の高度化のために、大学を取り巻く諸々の政策・施策の作られ方やそれらの概要を解説するとともに、大学に対する評価のされ方、そして社会に対して研究機関がどうあるべきかを考える上で参考になる国際的な宣言と目標を紹介する。これらの情報はURA業務の質の向上に資する。
2	日本のURA	URAとして、あるいはURA部署を越えた人材として発展し、研究活動の活性化や組織の機能強化に、より一層貢献するために、自身の将来のキャリアを考える機会とする。そして、キャリアアップの一助となる自身の質の向上に資するURAの認定制度について説明する。また、世界のURAとの交流のために、各国のURA組織と業務の傾向を紹介する。
3	研究コンプライアンス及びリスク管理①	組織マネジメントの観点から研究活動におけるコンプライアンスとリスク管理を理解し、担当部門と連携して、研究者へアドバイスできる知識とスキルを習得する。
4	研究コンプライアンス及びリスク管理②	組織マネジメントの観点から産学連携活動におけるコンプライアンスとリスクを管理を理解し、担当部門と連携して、研究者へアドバイスできる知識とスキルを習得する。
5	研究開発評価	研究開発評価の概念やロジックモデルなどの基本ツールを踏まえ、所属する研究機関が研究開発事業の評価を受ける際に適切に対応できるようより実践的な知識を解説する。また、研究機関内でURA等が企画・実施する研究開発事業を適切に実施するための考え方を説明する。
6	外部資金概論	Fundamentalレベルの知識があることを前提に、研究者ごとに適切な公募情報を提供することができるとともに、研究機関を対象とした外部資金の獲得にURAとして貢献できる知識と能力を習得するための情報を概説する。また、研究費の適正管理と不正使用防止のための注意点も概説する。また、大学等研究機関が関与するものの、申請主体が他セクターとなる外部資金についても、その存在や手続き等について一連の流れを学ぶ。
7	申請書・報告書の作成支援	趣旨に合致した申請の中から最適な提案を選考する効率的な審査を行うための申請書、また得られた成果を、研究者自身のみならずFA機関も次に繋げられる報告書とするため、URAとして研究者等に事業の背景や狙いを適切に伝えるとともに、申請書・報告書作成において適切な助言ができるスキルを学ぶ。
8	科学技術政策概論	科学技術政策の中で大学・研究者及びURAに求められている役割を認識した上で、それに資する具体的な施策やその作られ方を知る。また、大学/研究機関におけるそれらへの対応の現状を知る。
9	研究力分析とその活用	URAの研究戦略推進支援業務の要素となる、研究力の調査分析について、個別の研究者、プロジェクトの支援に活用できる事項並びに組織の状況把握を行うための基本的な事項を学ぶ。
10	研究プロジェクトのマネジメント手法	研究プロジェクトの創出から経常的な運営までの一連の作業工程について、Fundamentalレベルで修得した基本的知識に基づき実践できる能力を評価する。具体的には、大学などアカデミアを拠点とする研究プロジェクトの構想、立案、研究資源の確保、研究組織案の策定、研究プロジェクトの起動・運営・マネジメント、研究リーダー（PI=Principal Investigator）との連携と役割分担など、PIとともに主体的に担うために必要となる知識範囲を対象とする。
11	産学官連携	産学官連携の動向や役割を深く理解し、企業をはじめとする外部機関等との間でWin-Winとなる適切な産学官連携を企画提案、調整、推進するために必要な実務に関する知識とスキルを習得する。
12	地域連携	地域課題の発掘から、課題を解決する連携プロジェクトの企画提案、チーム組成、調整、運営するために必要な地域連携の実務に関する知識とスキルがどのようなものなのか理解する。既にテーマが決まった地域連携プロジェクト（あるいはシステム）の学内外セクターに対するマネジメント手法を事例をベースにして学ぶ
13	知的財産	関係部署（知財本部・TLO）と共に働けるという到達点を設定し、ロールプレイ形式で発明の発掘を行い、技術を理解し、獲得すべき知的財産権を理解する。また、特許出願までの流れを把握し、論文と特許の関係について、その違いと共通点を理解する。
14	広報	広報・アウトリーチ活動に関する業務を行うために必要は基礎知識を習得する
15	国際化推進	URAが貢献できる研究の国際化推進の業務について事例に基づき基礎知識を習得する

東京大学スキル標準(22項目)をベースとして科目構成を検討

研修レベル	研修レベルの説明	科目数（検討中）
Advanced	URA業務上の課題の発見と解決を主導的に行うことができる知識のレベル	○専門領域
Core	URA業務上の課題の発見と解決を自立的に行うことができる知識のレベル	10グループ（科目群） 15科目
Fundamental	URA業務上の課題の発見と解決を上司の指示のもとに行うことができる知識のレベル	10グループ（科目群） 15科目

レベルの関係（イメージ）

□ は、一つの業務（科目）区分を示す。



1. Advancedの専門の領域(カテゴリー)の決定
2. Fundamental、Core、Advancedの読み替えの認定
3. カリキュラム全体の量
4. 実施回数、実施場所
5. 研修形式 (e-learningの取り入れ等を含めて)
6. 修了確認試験の方法 (webシステムの利用等を含めて)

(他のWG、委員会と相談しながら検討)